

令和4年度 第1回堺市立図書館協議会	
令和4年6月21日(火) 14時~15時 堺市立中央図書館 1階 集会室	
委員	中川幾郎会長、森美由紀副会長、北庄司愛浩委員、小松清生委員、 是住久美子委員(リモート参加)、飛石隆男委員、松原茂樹委員、 山尾真弓委員、吉田富美委員(リモート参加)、吉原極委員
事務局	浦部中央図書館長、赤嶺中央図書館参事(企画・調整担当)、 湯川中央図書館総務課長補佐、眞鍋中図書館長、杉本東図書館長、 眞鍋西図書館長、白川南図書館長、三藤北図書館長、田中美原図書館長、 輔信企画情報係長、白川主幹兼図書館サービス係長、稲野企画情報係員、 田代企画情報係員
傍聴	4人
案件	令和3年度堺市立図書館サービス評価(案)について

署名委員の決定
松原委員 吉原委員

案件について	
発言者	内容
事務局	案件について説明
会長	委員の意見を順番にお聞きしたい。
委員	<p>「生涯学習について様々な学習を支援します」の中で、学校との連携について触れられている。学校司書が週2回全校配置されるようになり、サポーターの方に週3回入ってもらい、学校図書館が活性化している。パソコン、タブレットと共存していきながら、学校図書館の充実や市立図書館との連携について試行錯誤しているところである。</p> <p>読書ノートについて、紙からタブレットに打ち込む形式に変わった。市立図書館に行くきっかけとしては、良い取り組みだが、記録をタブレットに入力する形式には課題を感じる。</p>

委員	<p>情報発信について、いろいろと工夫もされているが、なかなか末端まで届いていないのではないか。図書館の来館につながるよう、これからのわかりやすい発信に期待する。</p>
委員	<p>南図書館は分館も含めて駅近にありながら、利用が少ないのが不思議。発信も足りないと感じる。</p> <p>広報について、住んでいるところの図書館のことは分かるが、他の図書館のことが分からない。QRコードの掲載については期待するが、スマホを持っていてもQRコードを使うことはできない方も少なくない。そのことは留意してほしい。</p>
委員	<p>図書館の本が代わり映えせず、子どもが図書館へ行きたがらない。本の入れ替えをし、新しい本がたくさんあれば、図書館に行こうという気持ちになる。</p>
委員	<p>新聞などのメディア掲載が少ない。田原市でもプレスリリースに力を入れている。新聞に掲載されると図書館を利用していない人や市の職員へのPRにもなる。広報に力を入れていただきたい。</p> <p>図書館を利用していない人の利用の実態をつかむことについて、市が行っている調査を利用してはどうか。</p>
委員	<p>不登校の生徒について、鎌倉市 twitter で「図書館にきてね。」とツイートする事例があった。学校と連携して、図書館に行けば学校へ行かなくてもいいような、図書館からのサポートを希望したい。図書館資料を利用しない人は学習室の利用を遠慮してほしいという考えは緩和してほしい。</p> <p>若者はとにかく自習する場所、勉強する場所を求めている。若者に目を向けて、図書館に来てもらうんだという姿勢を見せていただきたい。</p>
委員	<p>ティーンズコーナーを設置すれば、中高生が来るとは思えない。まず図書館に来てもらって、その先に本がある。広報もしっかりとやっていく必要があるかと思う。</p> <p>基本方針の枠の中で、各課題に対して対応策が設定されているが、その課題と結果がどう対応しているのかがわかりにくい。</p>
委員	<p>学校図書館や読書ノートについて、意見を出させていただいている。学校との連携の中でとの回答だが、ぜひとも力を入れていただきたい。</p>

	<p>他の委員の話にもあったが、市民ニーズをどう掴むのかは話し合っていく必要があると思う。</p> <p>広報について、新聞に掲載されるとやはり違う。小さなことでも掲載してもらおうことが大事。</p> <p>今年は学校教育 150 年の年なのに、何もないので残念に感じている。図書館でできることがあると思う。</p> <p>広報さかいの形が変わって、掲載情報が減った。市民の求めている広報になるよう、行政内部からも声をあげていただきたい。</p>
委員	<p>広報は PR が足りない点と、学校図書館とのすみわけをどうするかという点について課題がある。</p> <p>ティーンズコーナー設置について評価に書かれているが、本とヤングアダルト世代を結び付けるために、もっと戦略的なアピールをしてほしい。</p> <p>評価の書き方について、拡充と継続と見直ししかない。全部見直しはまずなので、展開・応用等、検討してほしい。</p> <p>広報について、各図書館それぞれが PR するのではなく、企画情報係がまとめる等、組織改革も含めて検討してほしい。</p> <p>サービス評価の 5 ページ目の基本的な図書館活動指標について、オンラインデータベースのタイトル数が平成 30 年度は 12 タイトル、令和 3 年度 9 タイトルで 3 タイトル減っている。どの分野が減っているのか。使用料が上がったために減らさざるを得なかったのだろうと思う。</p> <p>6 ページ目対面朗読室の利用数が平成 30 年度の 322 から令和 3 年度は 1 となっている。コロナの影響はわかるが、利用者側が回数を減らしたのか、それとも図書館側としてコロナ禍のため、対面朗読室は控えたということなのか。オンラインの活用の仕方がもっとあってもよかった。</p>
会長	<p>かなりたくさん意見が出たが、図書館側としてはいかがか。</p>
事務局	<p>子どもへの教育について、学校教育に関しては学校教育部の管轄であるため、直接図書館が何かをすることは難しいところがあるが、教育委員会として個別最適な学びと協働的な学びを目的として取り組んでいる。図書館としても、現在の学校への支援だけではなく、個々の児童・生徒への支援ができるようになればいいと個人的には思っている。自分たちも勉強をして、学校と連携を取りながら、更なる支援ができるようにして</p>

	<p>いきたいと思う。</p> <p>コロナ禍の中、対面朗読室を使っでの対面朗読が行いにくくなった。対面朗読用のパソコンを購入し、リモートはできないが、読み手と聞き手が館内の別々の部屋に入って対面朗読をできる環境は整えた。しかしながら、点字図書館では自宅とのリモートができるため、図書館の対面朗読の利用がない状況となっている。</p>
会長	<p>一方的ではなく、会話が成り立つようにしたい。他にもあれば、答えられる範囲で構わないので回答していただきたい。</p> <p>広報さかいが変わったことについてはどうか。</p>
事務局	<p>昨年広報のガイドラインが変わり、誌面構成に大きく変更があった。以前は細かく情報を掲載していたが、変更後は行事名、日にちが掲載される程度で、詳細はHPを見てもらうという形式になった。また、掲載件数も減らすことになり、図書館行事そのものが全市版に載りにくくなった。その分すっきりと見やすくなっただけではないか。</p>
会長	<p>分からないことは分からないで構わない。子どもの読書ノートについてはどうか。</p>
事務局	<p>以前の読書ノートを導入する際からいろいろと議論はあった。これをきっかけに1人でも2人でも読書に親しむ子どもが増えることが目的であったと記憶している。</p> <p>今まで本に興味のなかったサッカー好きな子が、グッズ目当てであっても、本を読んでみようと思うのであれば、読書への入り口が一つ増えたたとらえればいいのか。きっかけは多いほうがいいのかと思う。</p>
会長	<p>不登校の子どもを図書館でサポートするという話についてはどうか。</p>
事務局	<p>図書館の良さのひとつは、何もなくていい、そこにいるということを受け入れてもらえるということではないかと思う。</p> <p>個人的には、学校と連携を取りながら一つの学びの形として、図書館で学ぶということが市民にも受け入れられる、そういう図書館になればいいと思う。図書館が、学ぶ場として選択肢の一つになるということをめざしたい。</p>
委員	<p>前向きな意見で、少し安心した。うれしく思う。</p>

	<p>例えばだが、子どもが図書館に行って申告すれば、図書館から学校に連絡して出席になる、そういう小さなところからでも始めていけないか。図書館としても、来館者増、若者利用者増となる。そのきっかけの一つとして進めてもらえるとありがたい。</p>
<p>会長</p>	<p>そろそろ時間なのでまとめに入りたい。</p> <p>学校図書館と公共図書館の連携強化については、重要な検討課題として、この委員会としては意識しただろうと思うということの一つ。</p> <p>二つ目は市民への調査をしていく必要があるのではないかとのご指摘についても今後の提案課題であると思う。</p> <p>それから、不登校の子どもに限らず、社会的少数者、障害がある人とか社会的に孤立している人、一人暮らしで不安を持っている人などいろんなひとがいるが、それらを貧困だと考えている。時間のない人は時間的貧困、経済的社会的貧困、健康上の貧困もある。慢性病を抱えているのも貧困の一つ。</p> <p>相対的に弱い立場にある人たちを図書館はどう助けていくのかをもっと打ち出すべきではないのか。そのために小松委員はもっと議論しようと思われたと思う。そのため、調査のあり方を議論するのではなく、図書館の本来の在り方をもっと明確にしたい。</p> <p>課題はたくさんある。学校との関係、子どもとの関係、社会的に弱い人との関係。それから、自習室をどうするか。</p> <p>また、どのように魅力ある図書館にしていくか。堺市の生涯学習の中で市民教育はあるのか。文化施設の使い方や利用時のマナーなどを市民に認識してもらうための学習コースを設けてもらうよう図書館から提案してはどうか。弱い立場に置かれてしまっている人のことを忘れてはならない、ということをお願いしたい。</p> <p>ただ、堺市は地理的偏在の克服に関しては非常に頑張っている。各区に拠点を置いて、バランスのよいように政策しておられると思う。次は世代別政策ではないか。あらゆる分野において皆がアクセスしやすいようにということと、人口構成上の不公平感をなくすということ。図書館もそれに対応することが必要。</p> <p>また、どなたかが述べられたが、行政にもっと使ってもらおうということは、非常にいいこと。行政の中に図書館の味方が生まれてくる。それは非</p>

	<p>常に良い戦術であることを我々も意識していきたい。</p> <p>あと、拡充継続見直しという言葉が引っかかるという話。委員としては、すべて見直して改善すべきということであり、特記事項の中でどうよりよくするかを入れるようにしていただきたい。</p> <p>これらの意見を参考として次年度の運営及び令和 3 年度図書館サービス評価の完成に活かしていただきたい。</p> <p>委員から他に意見があれば。</p>
委員	<p>要望が二つ。</p> <p>一つは図書館協議会の 2017 年提言を見せていただきたいというもの。</p> <p>もう一つは、今の中川会長の話で、堺はバランスよく図書館があるとあったが、7区すべてに図書館はあるけれど、区ごとに広いため、区の中で十分に配置されているかという、そうではない。小さくても利用しやすいものを作ってもらいたいという要望がある。</p>
案件終了	
会長	配布されている『堺研究』について説明をお願いします。
事務局	お手元の『堺研究』は昨年度完成したもので、毎年発行しているもので、堺の図書館で所蔵している古文書・文書等の研究を発表している冊子であり、ぜひご一読いただきたい。
会長	堺ゆかりの文学者は少なくない。河井醉名に安西冬衛、伊東静雄など、堺を巡る文学者のシリーズを作るとすごいことになると思う。
事務局	次回開催は令和 4 年 8 月下旬から 9 月ごろに、令和 3 年度堺市立図書館サービス評価の完成および、令和 4 年度取組み目標や指標について予定している。
閉会	